

花園大学 日本文学科 通信

第4号
通巻32号

二〇一一年(平成二十三年)七月一日発行
編集・発行 花園大学日本文学科
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町八一
TEL (075) 81-1151(一)
81-1151(二)
振替 〇一〇五〇一四三九九五

根源的な想像力

丸山 顯徳

今の時代は、世の中が実用的な方向を志しているように感じられる。大学に対してもコンピュータや英語会話や国語表現の力を養成することが求められている。それは、あくまでも伝達の手段として重要であるということである。伝達の手段を持つことは、大変結構なことであるに違いない。しかし、そのコンピュータや英語会話や国語表現力で伝えたい内容がなにもなければ、手段は宝の持ち腐れである。文学部は、その手段という宝を、持ち腐れにしないために、その中味を作る学部である。車は、いろいろな重要なものを運搬してくれるが、運ぶ中味が重要である。仏教では、覚りに到るために大乘とか言つて、貴重な乗り物があるそうである。その乗り物はあくまでも彼岸に連れて行く手段である。

記録に残る日本の古典文学は、千三百年ほどの歴史があるが、魅力的なのは、古い時代の創造的な表現力である。ギリシャやローマの美術を見て、近代のルネッサンスが生まれたのであるが、記紀

神話をしっかりと読むと、日本の未来にわたる創造性の根源が分かる。もつとも古い時代の文学が、最も心の深層で、根源的な想像力をしめしている。奈良時代の文学には、犬の鋭い目や牙、吸覚や早い足、忠義性などの本質を描いている。しかし、仏教や儒教の世界には、犬は、畜生だとかスバイだとか、歪められた表現がみられる。ところが神話世界では犬の本質をズバリ表現している。残念ながら津田左右吉はこの神話的な想像力を理解できなかつた学者である。記紀の神武天皇伝説には歌謡が多いが、かなりの部分の歴史を、歌で伝えられている。ハワイでは神話や歴史をフラという音楽・芸能を通して体で伝承しているのである。ハワイのフラに見る様に、歴史や神話は紙媒体だけで伝承するものではないのである。

(日本文学科主任)



来日にあたって

張 龍 龍

私は二〇一一年四月から、この桜の花が咲く季節に、蘇州大学と花園大学との交流協定により、交換教員として花園大学に赴任しました。来日する前、今回の東日本大震災が起り、たいへんな驚きと心配する気持ちを持って、見守ってきました。また、以前私が日本に留学する経験があつて、再びこの桜の満開を見て、まさに「さまざまの事おもひ出す 桜哉」というのが今頃の心境です。

花園大学と蘇州大学との交流歴史は二十何年前に遡れます。現に花大(文学部の先生も含めて)の多くの先生方が蘇州に行かれて、多くの蘇大生に授業をなされてきました。蘇州といえば、よく「水の都」で知られています。かつて芥川龍之介が蘇州に行つて、『江南遊記』の中で、「町の外はどちらを向いても、水光と緑との見えない所はない」とか、「蘇州にはヴェニスのように、何よりもまづ水がある」とか書いています。地元の人がよく「上は天国あり、下は蘇州、杭州あり」と自慢げに言っています。そんな蘇州がいまや中国经济発展のうねりの中で、著しく変貌を遂げています。日系企業もたくさん進出して、日本人学校やジャパンニズ タウン(商業街)もできています。日本語ができれば就職に有利ということで、大学生も含めて人気があります。

私はこれから二年間、中国語会話・作文・中国文化論などを担当します。とくに中国文化論では映像を使い、中国の歴史や現代社会の変遷、また

中日交流について、みなさんに紹介していきたいと思ひます。興味のある学生諸君、この機会にぜひと思ひついでいるところですよ。

(蘇州大学交換教員)

研究室での仕事

道行 朋臣

共同研究室の仕事の中で、質・量共に大半を占めるのが、集まった資料の整理整頓です。室員の基本的な仕事であり、最も大切な仕事であり、悩みの多い仕事であると思ひついでいます。

現在の三人体制が始まった十年以上前と比べても、集まった資料数は大幅に増え、紙以外の資料も多くなりました。置き場所の入れ替え、目録の改版、収納スペース確保の為の不要品処分等、やる事はいくらでもあります。勿論、資料の整理整頓以外の仕事もあります。共同研究室室員は、結構忙しいのです。

他大学研究室でも、資料の保管場所確保に苦勞している様です。資料の受け入れ先を図書館に一本化する、受け入れ冊数を一誌一冊に絞る、相手先に送付辞退を申し出る、といった事が既に行われています。

この様に、大学内外を問わず増え続ける資料の整理整頓に苦勞していますが、僕はこの仕事が好きです。先生方や在学生は勿論、卒業した後輩達や緒先輩方であっても、共同研究室の資料を活用して下さるのであれば、協力します。簡素で地味に作っている保管資料の目録も差し上げます。資

料は利用されて活き、利用者が新しい資料と情報と呼ぶきっかけになり、資料と情報と利用者によって研究室の価値が決まります。研究室室員は裏方として、あるいは定観測者として、研究室の様子を申し送りノートに書き続けていきます。そして、機会があれば発信していきます。

(日本文学共同研究室室員)

卒業生からの便り

純行安宿調査旅行

内藤 由直

私が花大の学生だった時、先輩二人と一緒に東京へ調査旅行に出かけた。国会図書館、日本近代文学館、神田や高田馬場の古本屋街へ、研究に必要な資料を探しに行った。お金のない我々が利用したのは「青春18切符」であり、カプセルホテルである。東京からの帰りは、学割の利くJRの夜行バスだ。

鈍行で東京まで行くのは辛かった。時刻表を調べ、京都駅から八時間で東京駅へ着く予定を立てたのだが、熱海でとうとう耐えられなくなつて下車した。そこで十分に休憩した後、出発から一〇時間ほど過ぎた夜になって東京へ着き、ガイドブックで探し出した一番安いカプセルホテルに投宿した。

翌日からの調査は楽しかった。初めて行く図書

館は、そこへ行くだけで心弾む思いだった。なかでも日本近代文学館では、「学生がわざわざ京都から来たのか」と感心してくれて、私が研究していた安部公房の自筆原稿を特別に見せてくれた。安部独特の四角張った文字が並ぶ原稿用紙をめぐりながら、私は興奮を抑えられなかった。

高田馬場では、山手線の駅から早稲田大学までの路沿いに並ぶ古書店を一軒ずつ覗いて回った。そこでは、神田と比べてとても安く本が買えた。調子に乗って買い漁った本は、ボストンバッグ一杯になった。肩が抜けそうなくらい重たかったそれを引き摺るようにして歩いたことは良い思い出だ。京都へ帰ってきた時、朝の五時前に到着したバスから降り出され三人で途方に暮れたことも、今となつては懐かしい記憶である。

このような旅行は、もう二度としないだろう。こうした経験は、学生の間にはかできないことだと思ふ。みなさんも、花園大学の学生である今しか出来ないことを見つけて挑戦して欲しい。その経験は、たとえ辛いことであっても、あるいは徒勞であっても必ず、未来の自分に資するものとなるはずだ。

(非常勤講師・二〇〇一年度
大学院文学研究科修了)



古事記にみる父と娘

青嶋 香織

四月から大学院生になりました。私は、日本の上代文学を学びたいと思っており、特に『古事記』を中心とした研究をしたいと考えています。

『古事記』の中で、最も興味を持つているのは、「根の堅洲国」です。「根の堅洲国」というのは、『日本書紀』では、「根の国」と呼ばれており、スサノヲの支配するところですが、存在する場所については、地下や海の彼方にあるという説、地上にはあるが遠くにある国だとする説があり、はっきりとしたことはわかっていません。この根の国を訪れたオオナムチは、スサノヲの娘であるスセリビメに一目で見初められ、結婚することになります。しかし、父であるスサノヲはオオナムチに対して、蛇や蜂、ムカデの洞窟に入ることなど、次々と難題を出していきます。そして、オオナムチはこの難題を妻のスセリビメの援助で克服していきます、最終的にはスサノヲの持つ宝を盗み出し、スセリビメを背負い、根の国から逃げ出し、出雲国の王者になります。こうした義父スサノヲの行爲は、娘の彼氏を敵対視する父親の姿と重なるのではないかと考えられます。それが現代の父親の心と共通点があるように思われるのです。いつの時代も、父と娘の間には、微妙な距離感があるようです。

(本学大学院文学研究科 一回生)

新しいスタイルの気づき

吉田 淳平

二〇一一年、花園大学文学部国文学科を卒業し、中学校の国語科の教員となりました。新任という不安定な立場ながら、担任をさせていただき、大きく成長するチャンスに面しています。

学生であった頃、卒業後は教員になろうと思ひ、教職課程で基礎知識を学ぶかたわら、社会教育施設や小、中学校でボランティアやアルバイトをして、教育現場に携わっていました。そういった活動の中で、児童生徒にどのような課題があるのかわかり、また、それらの課題を解決する方法を考えて実践しました。そこには多くの学びがあり、私にとって大きな力になりました。それらの経験が実り、採用試験に合格する事が出来たと思います。

現在、新規採用の教員として中学校に配属して一か月がたち、最初の壁に直面しています。それは、授業において、児童生徒の学ぶ権利を保障する事です。一斉授業において講義形式の授業や、一問一答形式の授業スタイルでは、教室の児童生徒全員の学ぶ権利を保障する事は出来ないのです。四月にそれらのスタイルで授業を行う中で、力のある生徒や、感性の豊かな生徒しか学ぶ事ができないと思いました。そこで、三月に研究授業を見学させていただいた三校の実践を思い出しました。「共同の関係の中で協同する事で、全員が授業に参加できる学び」という今までにないスタイルの授業実践です。見学した際にすごく感銘

を受けましたが、それ以上に私は学ぶ当事者としての経験を持つている事を思い出しました。それは、四回生の時の国語学演習でした。研究している私たち四回生は共同体として難しい課題に挑戦し、全員が学んでいたと思います。今、その経験が新しい学びのスタイルへの挑戦を後押ししています。また、その新しいスタイルを指導していただけの方とのコネクションもできました。私は今、新しいスタイルに挑戦する事への不安と期待を抱え、長く続く教員生活への希望を持っています。

(二〇一〇年度 卒業生)

書すること

遠藤 ゆみ

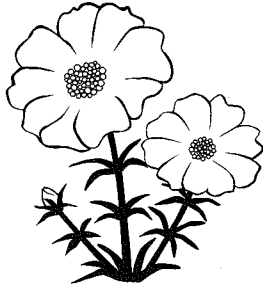
早いもので大学を卒業して一〇年が過ぎた。昨年度大阪府の教員採用試験に合格し、本年度より東大阪市立日新高等学校で書道の教諭として多忙な毎日を送っている。これまでは兵庫県や大阪府下の高校で非常勤講師として勤務し、四年前に大阪府で書道の教員採用枠があつて以来受験し続け、この度の採用となつた。一〇年間安穩とはいかず、自分の進むべき道が正しいのか諦めるべきか苦悩もした。それでも続けることが出来たのは、周囲のサポートと書の楽しみを知ることには他ならない。

書道教諭の採用枠は他教科に比べて極めて少ない。殆ど機会が無いといつてもいい。大学ではこの現状を認識し国語の教員免許も取得した。実際国語を教える機会も得たが、頑固な性格から書道

に固執し、非常勤講師を続けながら自分の研究を見つめる為に大学院で学びなおした。

今回教諭としての道が開けたのは、諦めずに続けて来たことも大きいですが、日々の営為を大切にし、自分に出来ることを積み重ねてきたからだと思ふ。私にとつてこの一〇年は無駄では無かつたと思ふ、人生回り道にも意味があると思いたい。また専心できること(私の場合、白川静博士に学んだ漢字の成り立ち、文字学である)を見つけたことも大きい。さまざまな出会いに感謝し今自分が与えられた場所で精一杯のことをする。私にとつて書とは何かを問い続ける道は続く。

(二〇〇〇年度 卒業生)



◎教員消息

・新間水緒先生は、四月一日から、文学部長に就任されました。

◎花園大学日本文学会公開講演会(無料)

日時 二〇一一年六月二十五日(土)

午後一時〜四時

会場 自適館三〇〇番教室

講演 「御伽草子と清水寺」

新間 水緒 本学教授

「泉鏡花と志賀直哉」

弦巻 克二 奈良女子大学名誉教授

※講演会の後、「懇親会」を開催します。

ふるつてご参加ください。先生方や後輩たちとの楽しい懇談の場にしりたいと思ひます。

◎夏目房之介先生 マンガ講座(公開無料)

※詳細につきましては、花園大学企画広報室(電話〇七五―八一―一五一八一代)までお問い合わせ下さい。

◎二〇一一年度『京都学公開講座』(無料)

日時 八月一日(月)・二日(火)・三日(水)

午後二時より

会場 花園大学 無聖館 五階ホール

※講演題目・講師等につきましては、ホームページ・ポスター・チラシ等でお知らせする予定です。詳細につきましては、花園大学企画広報室までお問い合わせ下さい。

◎『花園大学日本文学論究』第三号

・かぐや姫と難題物

助口 春花

・和歌と政治

——「紅旗征戎非吾事」の詩学的な解釈——

李 東軍

・『宇治拾遺物語』の「京」と「田舎」

——付「異国」——

新間 水緒

・受贈図書目録(平成二十二年一〇月〜同二十二年九月)

◎共同研究室案内

「日本文学科共同研究室」

・場 所 裁松館六階六一一号室

・開室日 月曜日〜金曜日(木曜日は後期のみ)

・時 間 十二時〜十七時

・日本文学科の学生であれば、誰でも自由に閲覧できます。各種の辞書や索引、古典文学叢書、近現代の全集、雑誌など、基本的な資料を置いてあります。

・貸し出しはしておりません。

「書道共同研究室」

・場 所 直心館二階二〇四号室

・開室日 月・水・金曜日

・時 間 十三時〜十八時

・日本文学科の学生であれば、誰でも自由に閲覧できます。書道に関する各種の辞書や作品図録・各種技法書など、基本的な資料を置いてあります。

・貸し出しはしておりません。